

第5回 美祢市新総合支所庁舎等整備有識者会議

開催日時	令和2年12月22日（火）10:00～12:00
開催場所	美祢市美東保健福祉センター 大ホール
出席者	<p>山口大学大学院創成科学研究科 教授 岡松道雄</p> <p>山口県建築士会 理事 加藤久雄</p> <p>山口大学大学院創成科学研究科 教授 鈴木素之</p> <p>徳山工業高等専門学校 土木建築工学科 准教授 目山直樹</p> <p>株式会社YMF G ZONEプランニング 蔵重嘉伸</p> <p>総務省地域情報化アドバイザー 遠藤勇一</p>
欠席者	山口県立大学 社会福祉学部 教授 前田哲男
事務局	<p>美東総合支所：志賀支所長、上田課長補佐、重枝主査</p> <p>秋芳総合支所：鮎川支所長 五嶋課長補佐</p> <p>教育委員会事務局：末岡教育次長、八木下事務局長</p> <p>総務課庁舎整備推進室：白井主任</p> <p>基本計画策定支援・基本設計業務委託業者：(株) 龍環境計画</p>
次第	<p>1 会長あいさつ</p> <p>2 議事</p> <p>（1）基本計画の概要について</p> <p>（2）第6回ワークショップについて</p> <p>（3）基本設計方針について</p> <p>（4）基本設計平面計画について</p> <p>（5）構造方式の選択について</p> <p>（6）スケジュールについて</p> <p>3 その他</p> <p>（1）これからの有識者会議について</p> <p>（2）次回（第6回）有識者会議</p> <p>4 閉会</p>

内 容

	<p>次第に基づき以下のとおり進められた。</p>
岡松会長	<p><b>1 会長あいさつ</b> (省略)</p>
事務局	<p><b>2 議事</b> <b>(1) 基本計画の概要について</b> ＜ 説明 ＞</p> <p>質疑なし</p>
支援業者	<p><b>(2) 第6回ワークショップについて</b> ＜ 説明 ＞</p> <p>質疑なし</p>
支援業者	<p><b>(3) 基本設計方針について</b> <b>(4) 基本設計平面計画について</b> ＜ 説明 ＞</p> <p>質疑は以下のとおり</p>
C委員	<p>スケジュール管理について、この段階あたりで振り返ってほしい。何がいつの段階で決まったのか、何をどう議論しているのか、後から検証や見直すときにいいのではないか。ワークショップに参加された市民は、ワークショップの中で形になっていき、関わり方等を検討しているからいいが、その他大勢の主体的に関わっていない人たちが見るときに、やはり時系列的に整理をつけておいた方がいいのではないか。</p> <p>例えば簡単なロードマップにするとして、有識者会議での検討、庁内の検討組織、市民ワークショップと、三段書きをして、それぞれこういうことを決めた、こういう結論に導いた、このときに派生的に市民自らが関わりたいと言われ、そういう施設のつくり方をするという方針を決めたということ残しておくといいのでは。</p>
岡松会長	<p>検証をするということは非常に大事で、将来、このような計画が発生した時の振り返りになる。</p>
事務局	<p>事務局側としても、スケジュールを組んでいるが、ワークショップ等を行う中で、例えば基本計画のワークショップをしているのに、基</p>

	<p>本構想段階の話が出たり、基本設計の段階で、基本計画段階の話が出るが多々あります。その辺りが市民の方にも伝わりにくいという思いを持っていますので、整理をしたいと思います。</p>
C委員	<p>ワークショップで物をつくっていく、形を決める、案をまとめるとき、話が行きつ戻りつします。これはあり得る話で、問題は、ワークショップの段階というのは、決め事を絞り込むものというところを皆さんに意識してもらわないと、行きつ戻りつが非常に大きくなる。</p> <p>総合支所2カ所とも動きが全然違うので、その辺のところは際立つような整理の仕方をして、それぞれに力を尽くした、意を尽くしたというのが伝わるようにしていただきたい。</p>
支援業者	<p>このプロジェクトにとって大事なご指摘をいただいた。基本構想が行政の内部で作られていること。その段階であまり市民の意見が入ってないこと。そのような状況のため、基本計画の前半はほとんどその基本構想をカバーするつもりで進めていました。最初から敷地が決まっていれば、やり方もまた変わったのかもしれませんが。敷地が決めきれないというのも、この町の現状なので、それを大事にしながら決めていくときに、やはり皆で合意して決めていくのも大事だろうという進め方をしてきたので、いつ何がどういう理由で決まって、どう流れてきたのか、我々なりで整理しておこうと思います。</p>
岡松会長	<p>私も建築の設計を専門にしていますが、スパイラルアップという表現をします。当然そのことを踏まえて言われていますが、外部から見るとそれが迷走と捉れかねない部分があります。しかし、それが必ず踏むべきステップで、何度も行きつ戻りつ基本を確認しながら実施を進めていくということが、建築の設計の進め方だと思いますので、その辺は是非記録等をして後世に伝えられるということができればいいと思います。</p>
E委員	<p>レイアウトについて、市民の方の意見等を中心に考えられたということで、特段使いやすくなっていると思っています。ただし、運用の時間帯が違うこと、いわゆるセキュリティーの面もあります。もう一つ運営コストとして、例えば照明や空調も、全館動かすのか一部だけ動かすのかということもあります。その辺りについては検討いただけるということで安心しました。</p> <p>その上で1点質問ですが、秋芳の資料4の平面図です。基本設計案の中の左側の青い部分、総合支所の機能に整備されている中で、区長文書作業室という部屋があるが、美東にはないので、どういう機能の何のための部屋なのかというのを補足説明していただきたい。</p>

事務局	<p>資料4の区長文書作業室の件ですが、毎月1回、市民に市報を配布しているが、美祢、美東、秋芳それぞれの地域に広報誌を入れる棚があり、印刷物等を持ってきて棚の中に入れて管理している。そこで、作業しやすいように、作業室があった方がいいのではないかとということ。また、ちょっとした打合せも出来るように、スペースを入れています。</p>
岡松会長	<p>今の指摘、質問というのは管理の方面と、複合することのメリットとセットで考える必要があるのではないかと。管理はそれぞれのセクションごとに管理しなければいけないので、横のつながりが一番大事になってくる。ただそこに管理の問題をまず解消する必要があり、もう一つはそこに住民が入ってきた時に、住民の管理がどこまでできているか。柔軟な対応が必要になってくるのではないかと。そこに絞ってご意見、アイデア等ありましたらお伺いしたいと思います。</p>
支援業者	<p>今回図書館が一体化し、施設の中に入るの、図書館の開館時間はどうするのか。あとは公民館も土曜日、日曜日、あるいはその夜間をどうするか、管理を誰がやるのか。コストがかけられないという現実があるので、期待できるのはやはり住民の力ではないかと思う。図書館の運営も、運営に参加したい人たちがいると思う。探さないといけないが、そのような人たちが参加できる場所があることを理解してもらわないといけない。そうすると、お互いにすごく本が好きで、図書館に関わることが、その人のある意味の自己実現にもつながっていく。そういう意味でウィンウィンの関係が、どこでどういう形でつくれるかというのを本当は探していきたい。行政がお金をこれ以上かけられないから、どこまで手伝ってもらえるかというような折り合いのつけ方を考えていけば、いろんな可能性も出てくるのではないかと思う。今後そのようなことを一つ一つ精査しながら、詰めていく必要があると思っています。</p>
岡松会長	<p>理想として、公共施設を自分自身の動きにすることが、理想的な目標じゃないかと思っています。</p>
C委員	<p>単純な動線ということで、動線が折れ曲がっているものをできるだけ排除してもらいたい。災害時に高齢者が避難してきてトイレを使うだとか、部屋をどうするかという時に、動線が少し曲がっていたり、少し入り口が奥まっているだけで使いづらい。</p> <p>そういう意味でいくと、お年寄りや車椅子は、くねくね曲がる動線は大変だと思う。動線処理を上手い具合に配慮してあげたほうがいいのではないかなという印象を持ちました。</p> <p>また、よくあるパターンで言うと、狭い空間で曲げるのはできるだ</p>

	<p>け排除してほしい。もし狭い空間で曲げるときには、そこを少し広げるという配慮があってもいい。その辺りの配慮事項は、この平面計画の中で検討してもらおうと思います。</p>
岡松会長	<p>ぜひ実施設計で実現していただきたいと思います。</p>
C委員	<p>基本設計としてはこれでいいと思います。細かいところは実施設計で検討いただけたらと思います。</p>
支援業者	<p><b>(5) 構造方式の選択について</b>  <b>&lt; 説明 &gt;</b></p> <p>質疑は以下のとおり</p>
岡松会長	<p>コストを押さえながら地域の林業と結びついて、非常に広い視野においての構造選択と考えます。特に秋芳について、多目的ホールのサイズ等非常に厳しい条件を逆に活用されて、軽やかに明るく作ることができるかと非常にすばらしい選択だと思います。</p>
E委員	<p>秋芳については今まで、新築で木造を検討しているという話が出ていて、私の専門的に1番心配していた、サーバー室などの耐火性の問題は、一部RCにすると聞いて、なるほどと思いました。</p>
C委員	<p>地域の木材を使うことについては、非常に支持したいと思います。かなり意図してここまで持ってこられているので、是非ともそのあたりを指定する発注方式をとってほしい。どういう規模か分かりませんが、地域の中で消費して経済が回っていく、あるいは技能とか技術が回っていくようにしていただきたいと思います。</p>
岡松会長	<p>まさに、目に見えない価値です。技能などの話は、本当に地域の大工さんの技術を伝承していくためにも非常に貢献できるのではないかと思います。さらに林業が活発になっていくと、経済的な効果だけではなくて、防災的な視野まで含むことができるのではないかなと思います。その辺はいかがでしょうか。</p>
B委員	<p>森林というのが非常に大事な視点であり、山、森林を守っていくとか、管理していくということは防災上非常に重要です。森林が荒廃した後のこと、これまでの歴史でもわかっていることです。地域の森林資源を使うことは、非常に林業に携わる方にとっても励みになる。是非、活用していただければと思います。</p>

岡松会長	<p>ありがとうございます。</p>
A委員	<p>今どちらかというと、将来 50 年、100 年を見据えた材料というのは、むしろ嫌われています。そのような傾向がある中で非常に難しいですが、公共建築というのは、できれば将来を見据えた内装の選定なども必要だと思う。特に美祢市には石灰系の材料もあります。そのようなことも今後実施設計の中で、選定すればいいと思います。</p> <p>そこでどうやって参加される業者さんが、地域貢献に目を向けていただけるかという一つの手法としては、総合評価方式として、地域貢献度というところを評価点として入れておけるなど、そのような制度もありますので、今から少し設計の中でも織り込んでいただければいいのではないかと思います。</p>
B委員	<p>構造方式の選定に関する考え方という観点で、木造での方向性については、全く異論ありません。地元の製材を使うことは、私は大賛成です。それに導くに当たっての比較検討の項目という観点で、建築コストの比較というところでは、既にもう評価をされていると思います。公共施設も民間施設も、今後新しくつくる施設には、何が大事かということ、建物を建てて運用して、最後壊すまでというトータルライフサイクルコストだと思っています。例えば、RCで建築する場合と木造で建築する場合、一般的な比較になるのかもしれませんが、木造でつくった場合も、遜色ないということをお示しいただくよう、御検討してください。</p>
岡松会長	<p>トータルライフサイクルコストという非常に貴重な視点をいただきました。先ほどの林業や防災を含んでいくと地域全体の可能性というか、単に木造だけの比較表のコスト、評価ではなくて、総合的に評価した場合にどうなるかという視点でお願いしたいと思います。</p>
B委員	<p>構造種別の検討等で基礎のことですが、建物の自重を軽くするように設計いただくことで、基礎に関するコストが下げられるため、しっかり検討いただきたいと思います。</p> <p>建設場所において、既存の建物があるので、ボーリング調査などを実施しているはずですが、既存のボーリングデータを使われると、地盤調査の質が上がりますし、そのコストも下げられると思います。</p>
支援業者	<p>美東保健福祉センターの建物の図面があり、ボーリング調査のデータもありますので、参考にしてどういう基礎構造にしたら合理的かという検討に入っています。増築する部分は少し離れているので、新たに建てるときにはボーリング調査をしたほうが安全だと思います。秋芳の場合はかなり古いですが、体育館のボーリングのデータが残って</p>

	<p>いましたのでそれを参考にしています。</p> <p>杭が残ってしまいますが、杭の処理の方法等1番お金のかからない方法を今詰めているところです。</p>
岡松会長	<p>精度の高いものを今お考えになっているということで、いろんな側面から見てこの木造が一番いいという結論になりそうですね。</p>
事務局	<p><b>(6) スケジュールについて</b></p> <p><b>&lt; 説明 &gt;</b></p> <p>質疑は以下のとおり</p>
A委員	<p>工事発注される時に、まず補正予算ということで、実施設計の途中の9月に美東・秋芳それぞれ予算を確保し、設計が終わったと同時に12月議会にかけられるようなスケジュールになっていますが、通常入札が終わって議案を作成してそれから上程しますと、大体9月か10月ぐらいには入札しないといけない。議決と書いてあるのは、あくまでも入札結果の議決ですよ。資料では、設計は11月末までになっていますので、それから入札の準備は分かるので、12月に入札をされるのかなという感じはするのですが。議会の関係を教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>補正予算は9月の議会にかけて議決をいただく予定です。その後入札等を行い、1億5,000万円以上の契約につきましては、議会の承認が必要ということになっていますのでその意味の議決ということですよ。</p>
A委員	<p>それは理解しているつもりですが、11月まで実施設計があり、それからでなければ予定価格も作成できませんよね。そうすると早くても12月中の入札、特に一般競争入札するならば、当然それなりの時間は必要ですし、一般的には実施設計が終わって、それから予定価格を組立てて、告示を打って、大体40日を要します。一般競争入札だともっとかかります。また、先ほど申し上げた総合評価方式など行えば、それなりの時間はかかると思うし、12月議会に特定された業者さんの議決を取られますが、この間に時間が必要ではないかと思います。それであれば、今の段階から検討した方がいいのではないかと思います。</p>
岡松会長	<p>確認申請されてすぐ入札というスケジュールが重なっていますが、確認申請して変更された場合、価格に影響しますよね。そうするとスケジュールが成り立たないと思いますが。</p>

E 委員	<p>先ほど事務局から説明があったことを踏まえると、9月議会で予算をとって、多分10月に入札公告を打って、11月に入札結果が出て、12月に議会の議決をかけるスタイルになると思います。そうであれば多分9月末に実施設計書が出来ていないとおかしい。スケジュールが重複している部分が、少し納得出来ないところがあります。月単位ではなくて、週単位ぐらいにきちんと落としていかないと、本当に収まっているのかどうか、非常に判断しづらいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>この整備スケジュールは、大変タイトになっています。9月補正につきましては、実施設計の概算で予算要求する予定で、その後入札等を進めていく計画にしています。</p>
C 委員	<p>このスケジュール表で、これはないと困っているものが二つあります。まず、ワークショップは、基本設計までなのか、それともこの後の実施設計段階でも含まれるのか。それからもう一つは、この有識者会議は基本設計策定までですが、実施設計は有識者会議が関わるようになるのかが、スケジュール表に出ていないので、回答、確認いただけたらと思います。</p>
事務局	<p>まず1点目ですが、実施設計につきましても、市民の方々の意見を聞くワークショップは数回行う予定としています。</p> <p>その他の(1) これからの有識者会議についてというところでお話させていただこうと思っておりましたが、有識者会議においては、設置条例では任期というのが、基本計画、また基本設計が策定される日までということになっています。しかし、実施設計部分においても、有識者会議で検討していただけたらと思っています。</p>
岡松会長	<p>具体的には令和3年11月までということですか。</p>
事務局	<p>スケジュールでいけば令和3年の11月末までということですか。</p>
岡松会長	<p>実施期間として十分なのかということと、先ほどの補正予算等を考えると非常にタイトなような気がします。実施設計は4月スタートでないと駄目でしょうか。この実施設計のスタートを前倒しにできないですか。</p>
事務局	<p>1月に基本設計が終わって、実施設計の入札等の準備に入るということで、実施設計は債務負担行為で令和3年度の予算に上げるということになります。予算の裏づけが必要ということで、債務負担行為という形で、予算の措置をしているところです。ですから、実施設計は</p>



	4月1日以降の契約ということで、現段階では計画をしています。
岡松会長	2月、3月は何も作業ができないということですか。
事務局	2月3月につきましては、行政側のいろいろな入札等の準備を行う予定としています。
岡松会長	実施設計の作業ができないということですか。
事務局	その間についてはできないということになります。
岡松会長	非常にもったいないですね。
C委員	この契約は基本計画、基本設計という契約で今作業を進められているが、基本設計を策定した業者が実施設計を策定するイメージがあります。実施設計を切り離すやり方が良いとか悪いとかではないのですが、2月・3月の期間がもったいないという感覚ではあります。
事務局	現在、基本計画と基本設計を龍環境計画さんと契約しています。実施設計につきましては、業者選定の方法等まだ確定はしていませんが、実施設計は業者選定を行う予定で進めています。
E委員	私も行政にいるので議会のスケジュールなど重々承知をしているつもりですが、今言われたように、その予算の縛りがあるからそうしか出来ないという一つ大きな問題があります。もう一つ、今回のことについては、リミットが決まっているという問題があり、そこから逆算していかないといけない。おそらく、この建設工事、外構工事の期間というのは、縮めることはなかなか厳しいだろうと思われま。そうすると来年の12月議会で、いわゆる契約議案を議決しなければならぬ。これは地方自治法に定めがあるので、絶対必要なわけ。それで、12月議会に契約議案をかけるのであれば、入札公告をいつ出さないといけないのかというのは、常識で考えて10月には出さないといけない。そうなってくると、実施設計書というのはその時点でできあがってないといけない。補正予算、9月の段階ではぎりぎり、それは議会内部の話だから修正するかもしれないけど、という形でドラフト版を出すことができて、入札公告にフィックス版が出ないといけない。そうすると実施設計が4月から9月になって、この8か月を6か月に縮めるのですか。最初に言った予算の定めとか、今から先のことを順次考えている話と、今度リミットから逆算している話が、どうもマッチしていないのではないかと。入札公告をいつ行うという想定をされているのかを教えてください。

	きたい。
事務局	建設工事の入札公告は10月を予定しています。実施設計で、業務の中に建築確認申請等を含めたものをお願いしようとしています。9月の末までに建築確認申請ができるぐらいまでの図面等を精査して、予定では10月以降に建築確認申請等を行っていきながら、入札公告しようと考えているところです。
A委員	執行部から、設計について入札という言葉がありました。基本設計をこれだけクオリティの高い品質、それから住民と一体となった設計者との信頼関係ができている中で、随契という理由はたくさんあって、スケジュールのこともあるので、そのまま実施設計をやっていただくと、先ほどあった2か月間は非常にうまく利用できると思います。あくまで個人的な意見ですが、この実施設計で10月に公告を打つのは難しいスケジュールだと思います。
岡松会長	私も設計の専門家として、これまで培われてこられた、いろいろな良い建築ができそうな下地を、すべてリセットするような形になるのではないかと非常に危惧をしています。そのあたり、再考の余地はないのでしょうか。
事務局	今この場で結論は出せません。その辺りを踏まえて、庁内で再度協議をしたいと思います。
C委員	<p>実際にスケジュールの問題を考えて、工事が完了しなければ、合併推進債が使えなくなる。この2か月の時間を無駄に過ごすとか、無為に過ごすことがないように、判断いただきたいのが一点。</p> <p>もう一点、私の立場から言うと、何百回もワークショップに関わっていますけど、複数年で組んでいるものを、その基幹になるメンバーが変わったりしたら、前のように進みません。行政の担当者で中心的な人が、異動しただけでも影響を受ける。それで一番の問題は、市民に寄り添ってつくっているものなので、市民感覚的にも、あの人いなくなったみたいなことにはならないほうがいいのではないかというのが正直なところです。</p> <p>契約のような話は、難しい問題がありますが、人は変えないでほしい。事業が完了するまで、そういう付き合い方をしたほうがいいのではないかなというのを運営した側から思います。</p>
岡松会長	資料を見てもわかりますが、これだけ多くの方々が期待を寄せておられるこの気持ちなり、時間なりを是非引き継いでいただきたいと思います。それがここに集まっておられる皆さんの役目ではない

	かと思えますし、目に見えない価値ですよね。これを明らかにして、是非事務局の方へこれを解消していただけないかと思えます。
事務局	大変貴重な御意見をいただいたと思っています。先ほども申しあげましたが、有識者会議の御意見ということで、庁内でもう一度検討してまいりたいと思っています。
A委員	1点お尋ねですが、低価格制度はお持ちですか。もし低価格になった場合のことを想定する必要がないかもしれませんが。そういう制度があるかどうかだけお尋ねします。
事務局	低価格制度はあります。
A委員	あればそういったことも、これからスケジュールを詰められる時には、想定された方がいいと思います。低価格になれば、それなりの期間調整が必要ですので、ぜひスケジュール管理する中でいろいろなリスクがあるということも含めながら、スケジュールを立てられた方がいいと思います。
C委員	確認ですが、先ほどから議論の中に出てきている総合評価方式となると、通常の入札よりも審議期間、準備期間がかかってしまうので、今のスケジュールでは基本的にできないこととなります。本当は総合評価をやって、県産材を使う提案だとか、技能の継承に関わるポイントだとか、そういうものが評価項目に入って地元の企業者さんが関わる、あるいは大手と組んだとしても、そういうものを持っている人同士で組んでもらうように推奨しやすくなるが、そういう機会が失われる可能性も今時点であるという認識をしました。
E委員	先ほど少し入札のスケジュールをお話させていただき、私も全く同意見です。おそらく総合評価方式は無理だと思います。
岡松会長	この有識者会議の結論としては、ぜひ強く、この二か月を無駄にしない方策を事務局で考えていただいて、実現していただきたいと思えます。
	<b>3 その他</b>
	<b>(1) これからの有識者会議について</b>
事務局	<b>&lt; 説明 &gt;</b>
岡松会長	実施設計においても有識者会議を開催されるということで、委員の内諾については、委員の皆様いかがでしょうか。異議なしとしてよろし

	いでしょうか。
各委員	なし
事務局	<b>(2) 次回有識者会議について</b> <b>&lt; 説明 &gt;</b>
岡松会長	委員の先生方のご協力よろしくお願いたします。それでは本日の議題は以上で終了です。
	<b>4 閉会</b>